

IT の力で地方創生の糸口を探す
和歌山県 課題解決型ワーケーション体験プログラム(6/2-5)
－JISA 版はやぶさプロジェクト×和歌山県－ 報告

令和4年6月2日(木)～5日(日)、JISA 企画・広報委員会による JISA 版はやぶさプロジェクト「IT の力で地方創生の糸口を探す 和歌山県 課題解決型ワーケーション体験プログラム」にて JISA 尾本 昇 副会長兼企画・広報委員会委員会 委員長(伊藤忠テクノソリューションズ(株))をはじめとする9名が、課題解決型ワーケーションのために和歌山県白浜町を訪問した。

ワーケーションとは、Work(仕事)+Vacation(休暇)を組み合わせた造語であり、普段の職場とは異なる場所で地域の魅力に触れながら業務を行うことを指す。しかし、JISA はワーケーションをこのような新しいワークスタイルと捉えるだけではなく、地域事業者との対話を通じて地方における社会課題の一次情報に触れることにより、いかにして自らのIT の力で地域課題の解決に貢献できるか改めて考える機会として、本プログラムを企画した。以下にその概要を記載する。

4月25日(月)にオンライン(Zoom ウェビナー)にて事前説明会を開催した。JISA 版はやぶさプロジェクトとして開催する本プログラムの目的について参加者により深く理解いただき、また同時に「遊びにいくのではないか」といった社内の反発が散見されるワーケーションについて社内理解を得るステップとして企画したものである。参加者は24名。当日は和歌山県推進するワーケーションの概要及び当日プログラムの解説を行い、質疑応答を行った。

プログラム一日目である6月2日(木)は羽田空港から出発し、南紀白浜空港に到着した後、オリエンテーションとして和歌山県情報政策課課長 桐明祐治氏及び株式会社南紀白浜エアポート森重良太氏よりワーケーションの概要についてご説明いただいた。午後は、宿泊施設ホテルシーモアにて「Work」の体験として各自リゾートテレワークを実施。

二日目である6月3日(金)は、午前中に各自リゾートテレワークを実施したのち、午後は地域で活躍する4名の講師(白浜町役場総務課主任 滝本齊氏、NEC ソリューションイノベーションイノベーション推進本部 阪口信吾氏、株式会社ウフル 那須一徳氏、南紀白浜エアポート株式会社 森重良太氏)による地域課題の紹介、地域でのDX事例等の講演を聞き質疑応答を行った。また、地域課題解決型ワークショップを行い、参加者それぞれが地域課題をITで解決するためのアイデアを発表。地域事業者からのそれぞれのアイデアについてフィードバックが行われた。



リゾートテレワークの様子



ワークショップの様子

三日目である6月4日(土)は、午前中は「Vacation」の体験として自由行動とし、各々観光地等を楽しんだ。午後は地域のSDGs体験プログラムとして「世界遺産熊野古道 道普請(保全活動)」「農業体験」に参加(選択制)。熊野古道の道普請では、町教育委員会学芸員の佐藤純一氏による熊野古道の歴史を聴講した後、トラッキングコースの清掃活動。農業体験ではわかやましらはま農家遠藤賢嗣氏の循環型農業の考え方などを聴講後、スイートコーンの収穫を行った。



四日目である6月5日(日)は、午前中は自由行動とし、午後に羽田空港に到着し解散した。また、7月15日にはオンライン(Zoom)にてアフターフォロー研修を予定している。

なお、今回の詳細な報告は2022年10月発行のJISA会報にて掲載予定である。

以上



地域事業者との集合写真